進路・地域支援だより

令和４年２月１４日
岡崎聾学校進路・地域支援部
令和３年度第１０号

☆★高等部の先輩からのお話★☆

小学部、中学部で、高等部3年生の先輩から進路先のことや働くために必要な力について話を聞く会がありました。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためリモートで行いましたが、みんな先輩の話を真剣に聞き、さまざまな質問をすることができました。

小学部

小学部のころは、勉強が嫌いだったり、忘れ物が多かったりしました。でも、中学生になってから気持ちを切り替えてがんばりました。今は欠席もなく、提出物も早めに出すことができています。

小学部のうちにがんばるとよいことは、

- 忘れ物をしないようにすること。
- 提出物を出すこと。
- 苦手な教科でもがんばって勉強すること。
- たくさん友達と話すこと。
- 休まないで毎日学校に行くこと。

です。毎日学校に来て、たくさん遊んで、宿題もしっかりやって過ごしましょう！

先輩が仕事で運んだ荷物と同じ10ｋｇの物が入った箱を持つ体験をしました。

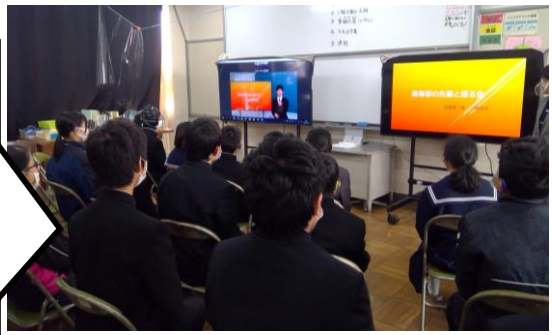
中学部

実習では、毎日体調管理に気を付けて過ごし、全力で行うことができました。また、自分から職場の方と積極的にコミュニケーションをとるようにしました。

中学部のうちにがんばるとよいことは、

- 自分から挨拶をすること。
- 積極的に部活動に参加すること。
- 締め切りを守って提出物を出すこと。
- 忘れ物をしないこと。
- 休まないで毎日学校に行くこと。

です。毎日学校に通うことが一番です。今、自分ができることを探して、増やしていきましょう！



先輩の実習日誌を見せていただきました。

先輩の話を聞いて、今からがんばりたいことを書きましょう。

本校を卒業された坂田翔悟さんが、卒業後の進路についての報告のために来校されました。

卒業生紹介　坂田翔悟　先輩（平成29年度卒業生）

本校卒業後、大学の社会福祉学部社会福祉学科行政専修で勉強するかたわら、陸上競技部に所属し、短距離選手として活動を続けてきました。卒業後は、外資系企業と陸上競技を続ける契約を結び、競技を続ける予定です。また、令和4年5月1日からブラジルで始まるデフリンピックにも出場します。種目は、100m、200m、4×100m、4×400mです。

●大学ではどのように過ごしていましたか。

大学は比較的情報保障が整っている大学でしたが、それでも十分ではありませんでした。自分にはノートテイクが合っていたので依頼をしていましたが、全ての講義に付くわけではありませんでした。単位を取るために、自分で勉強し、たくさんレポートを書きました。

●就職先はどのように決めましたか。

最初は公務員も考えていましたが、今しかできないことをやってみたいと思い、いろいろな所に相談をして、外資系企業に決めました。

●デフリンピックでの目標を教えてください。

デフリンピックでの目標は、けがをしないことと、メダルを取ることです。

●後輩の皆さんにメッセージをお願いします。

スポーツでもなんでもいいので、やりたいことを探し、今からやっておきましょう。やりたいことでも努力し続けること、モチベーションを持ち続けることは大変です。自分は仲間と一緒だったからできたと思います。共に努力し続ける仲間がいるとよいでしょう。

地域支援の現場より

公立高校入試の配慮事項について、地域の中学校（通級指導を受けている生徒）で行っていることを紹介します。特に、英語のリスニングテストや試験会場での聞こえに関わること（試験時間中の指示や問題訂正等の聞き取り）、集団面接時の聞こえに関わることなどについては本人、保護者、担任、通級担当で検討して、配慮申請をしていきます。

実際に配慮申請を正式に検討し始めるのは、12月末と1月末に行われる個別懇談会（受験校決定）の時です。聞こえに関して自分が不安に感じることをきちんと整理して一つ一つ丁寧に検討します。例えば、

□リスニングテストを別室で受験したい。
□監督や面接官の先生の声がきちんと聞き取れるようにロジャーマイクを使ってほしい。
□放送や監督の先生の声がきちんと聞き取れるように座席を前から2番目にしてほしい。
□試験時間中の指示や問題の訂正の連絡を文字で書いて欲しい。
□他の人の発言が分かるように、集団面接で聞こえがいい方の耳で聞き取りやすい座席にしてほしい。

※皆さんも自分に当てはまるものにチェックしてみましょう。

などです。自分の聞こえ方によってはまだまだ他にも不安に感じることは多々あると思います。皆さんも一度、自分の聞こえについて振り返り、どんなことをお願いするか考えてみてください。

お願いしたい配慮事項を決めた後、実際に受験校と中学校との間で連絡調整をしていきます。場合によっては、高校に出向いて事前確認をします。高校入試という人生の大切な節目で困らないように、毎日きちんと自分と向き合っていきましょう。